

## 二十一世紀に向けた都市基盤の整備

市内全域に平均化した人口の定住化と、山地の有効利用を図りつつ、「活力とうるおいのあるまち」を目指し、昭和六十二年からサン地開発事業を推進してまいりました。

すでに、サントウン玉川・サントウン九鬼・サントウン平栗の三団地の分譲も完了し、サントウン玉川は新しいまち並が形成されて来ております。

本年は、大幡兵海戸地内に六万一千平方メートル規模の造成を計画し、公営住宅用地五千四百平方メートルと個人住宅用地百二十六区画を予定し、現在測量・調査・設計を進めています。

今後とも調和のとれた開発を目指して適地を調査し、計画的に事業を執行してまいります。

また、市営住宅につきましては、均衡ある地域の発展を図りつつ、豊かな居住空間を市民に提供するため計画的に建設してまいります。本年も昨年に引き続き宮下団地に中層耐火構造十六戸一棟を建設いたします。

新しいまちづくりにつきましては、「新しいまちづくり推進協議会」に調査・研究をお願いしているところでありますが、この協議会では、先に、市民の意向を反映させたまちづくりを推進するため、アンケート調査を実施して市民の



次々と新築の家が建つサントウン玉川

意識と要望を多角的に分析し、ご検討いただいております。今春には新しいまちづくりのご提言をいただく予定となっておりますので、これを基に個性あるまちづくりを目指してまいります。

さらに、田原二丁目地内の大学周辺まちづくりは、地権者の方々に構成された田原土地地区画整理準備組合で検討がなされております。市といたしましても、総合的な土地利用を図る観点から積極的に推進してまいります。

また、都留市・谷村町両駅前の開発には民間活力をも導入し、文化都市にふさわしい自然にマッチした活力あるまちづくりの整備に取り組んでまいりたいと考えております。

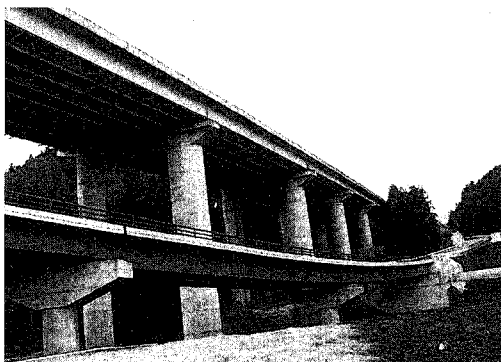
近年、国民生活の質的な向上と

産業構造の高度化などに伴い、交通体系の整備が緊急課題となっております。

リニアモーターカー山梨実験線の決定に伴い、中央道都留インターのフルインター化、国道バイパスの早期完成は、二十一世紀に向けて産業・経済・文化の飛躍的な発展を図るためにも最も緊急の課題であります。実験開始までには完成できるよう力強く国に要望してまいります。

また、県道高畑谷村停車場線のバイパス建設、都留道志線の未改良区間の改良も交通量の増加に伴い、早急に対応していかねければなりません。

側道古川渡東桂線整備は、三橋の一つ「城山大橋」の架橋工事も完成し、新年度には「柄杓流橋」の下部工に着手するとともに、年次計画で側溝に蓋をし、歩行者の安全を図ってまいります。



今月開通する城山大橋